1395号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)　2023.4.24
〒690-0823島根県松江市西川津町4276-B402　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/　編集 宮森健次

空き家　3

木幡智恵美

消える家③

散歩コースで、また立派な家が壊され始めた。数日かかって更地になったところは、割と早い段階で駐車場と化した。競馬場の中でも、古い家が壊された後、駐車場にされたところが点々とある。今や、一家に何台も車がある時代。我が家も多い時で三台あった。最近新築される家は三～四台車が置けるスペースを取っているところが多い。

週一回、点訳ボランティアの勉強会に向かう際、今はシャッターが降りている店舗跡の多い商店街を抜けていく。天神祭りに子どもたちを連れて来た際は、人の波に押し流されないように手をしっかり握って歩いた。店の前にはジュースやビール、かき氷などを売るテーブルが並び、賑わいを見せていた店も、大半が閉じてしまっている。数年前にはその一角で火災が起き、跡地は駐車場になった。それでも、細々と商いを続けていた店も、コロナ禍により、店じまいの張り紙が。「ここもか」「今度はここか」と心の中でつぶやく。

そんな商店街の空いた場所に囲いが出来、マンションの看板が立った。高くて二階建てというところに高層マンションだ。夫に言うと、「ええっ、商店街にマンション？」という反応。心配なのが駐車場だ。どんどん高く空へと延びていくマンションの建築現場を眺めながら、毎週駐車所らしきものを探す。マンションに入る戸数はおそらく数十、それも一家に複数台車があるとすると、敷地内にはとてもそんな駐車場は取れそうにない。建物の周りにせいぜい二十数台だろう。立体駐車場を作るのだろうかとスペースを探すが、そんなところはないし、建設する気配もない。そうこうしているうちにマンションは建ってしまった。建った後もやはり気になり、「駐車場空予定あり」などの立て看を見つけると、こういうところを借りるのだろうかと思ったりする。そうして見て歩いているうちに、以前は何らかの店を出していたところが結構駐車場になっているのだと気づいた。人口が減っていくのに車が増えて駐車場があちこちに出来る。住宅街だけでなく、商店街にまでマンションが建つ。街の景色がどんどん変わっていっている。

がらがら橋日記

宮森健次

団地にて

高台にある某団地の一軒から依頼があり、草取りに出かけた。その団地に行くにはかなりの急勾配を上らねばならない。車で行くべきか少し迷ったが、試したい気もして自転車で行った。どうにか上ることができたが息が切れた。

迎えてくれたのは腰のすっと伸びたダンディーな老人で、聞くと齢九〇才ということだった。団地の役員を数十年にわたって務めているというので感心したのだが、「あとを引き継いでくれる人がいないのです」とまじめな表情で付け加えた。

この団地は、ぼくが通った小学校校区にあるので、造成されたころの記憶がある。ここから通う同級生もかなりの数いて、よく遊びに行った。当時は車も少なかったので、団地の坂道はジグザグで上った。子どもにとってはそんなものは苦でも何でもない。友達とゲラゲラ笑いながら上っていた。

「昭和四十年代、ここができたころは、サラリーマンがローンを組んで自分の家が持てるようになった走りでした。だからその頃三十代から四十代の人たちがどっとここに家を求めたのです。」

老人は、道路を挟んだ向かいにある空き家とおぼしき二軒を指し示すと、

「あれはね、ちょうどその頃にできた家です。玄関ドアの色を変えただけの十八坪の同じ家が建ち並んでいました。」

何度も通った団地の初めて聞く歴史だった。

「でも、夢のような暮らしだったんですよね。」

「ええ、そうです。それまでたいてい間借りですからね。大家さん家族と襖一枚はさんで新婚生活なんてざらだったんですから、小さな家でも自分の家はうれしかったですよ。」

それから解けぬ雪のような五十年が降り積もる。空き家、独居、老人世帯が大半となり、新しく流入してくる住民があっても独居老人が多いのだという。

庭はよく手が加わっており、草取りもさほど労力はいらなかった。老人は、ぼくのそばに立つと、

「庭なんか造らなきゃよかったと思います。」

とやっぱりまじめな顔で言った。この一年、いったい何度これと同じ言葉を耳にしたことか。

時代の夢に同調しているとき、未来など見えはしない。今ぼくが思い描いていることも数十年経てば、令和の夢として骸を晒すのだろう。くらませているものの正体をどうしたら見破れるのだろうか。

草取りを終えた帰り道、息切れした急坂を一気に下っていると、両手を突き出すようにして自転車を押す老女とすれ違った。

30代フリーター　「多様性」という言葉をマスメディアやＳＮＳで見かけない日がなくなった。

年金生活者　世界はもともと多様だった。社会がそれに近づき、「多様性」が強調されるようになった。飢えや寒さを常に心配しなければならなかった時代の社会は、その対処に多くのエネルギーを割かなければならず、「多様」でいる余裕はなかった。

　いま言われている「多様性」には、マイノリティーの尊重が必須の要素として含まれている。飢えと寒さへの対処に労力を取られる社会は、マイノリティーの面倒をあまりみることができない。

　現在の先進諸国はそれがかなりできるキャパシティーを獲得した。資本主義の高度化が富の稀少性の縮減を加速し、消費支出の過半を選択的消費が占める社会を到来させたからだ。ただし、そのキャパシティーはまだ十分なゆとりのあるものとは言えない。大きくはなったが、依然として限られたパイであることに変わりない。マイノリティーの尊重に対して「逆差別」といった言い方がされるようになった理由がそこにある。

30代　移民をめぐる対立もそのひとつだ。

年金　この問題を乗り越えるには、パイをさらに大きくするしかない。経済成長の鈍化は不可避でも、成長を止めてしまえば、それができなくなる。資本主義のさらなる高度化と、それによる富の稀少性の縮減は、どんな政党が政権を担っても避けられない課題となるはずだ。

30代　女性は人口ではマイノリティーではないが、差別によってその意思が少数派扱いされてきたという意味ではマイノリティーだ。

年金　そんな女性をマジョリティー化することによって利潤を生み出しているのが現在の資本主義だ。「多様性」「ジェンダー平等」といった概念はそうした資本主義の意思に沿うものと言える。

　障害者やＬＧＢＴといったマイノリティーはどれだけ尊重されても、人口でマジョリティーになることはない。

　これに対し、女性は人口ですでにマジョリティーだ。「多様性」の広がりがジェンダー平等の実現につながり、人口だけでなく、社会的な意思としてもマジョリティーになる可能性がある。資本主義はそこに目をつけた。

　性別役割分業によって家庭内の仕事をおもに担わされてきた女性は、労働市場ではマイノリティーだった。資本主義の高度化は産業をソフト化し、それによって多様化した労働が、女性の賃金労働者化を促した。

　家庭内のシャドウワークでは得られなかった現金収入を得られるようになったことは、女性にとって利益の増大であり、それが働く女性を増やした。つまり女性たちを男性より低い賃金でも働く気にさせた。資本はその賃金の差額から利潤を得ることができる。

30代　格差がシステム化されている。

年金　それはかつて第２次産業中心の産業資本主義が利潤を生み出したときのモデルに似ている。当時、賃金労働者の供給源は農村だった。農民たちは都市に出て工場労働者になることによって、農業では得られなかった富を賃金として得るようになった。しかし、その賃金は労働力の再生産に必要な最低限の額に抑えられた。労働者はその額以上の労働をしたので、その差額を利潤として搾り取られた。言い換えれば不等価交換に甘んじるしかなかった。

　いま働く女性たちは男性との賃金格差という形で不等価交換を強いられている。産業資本主義の時代に、人口で圧倒的なマジョリティーだった農民が賃金労働者になることによって都市住民としてもマジョリティーになったように、現在の女性も人口だけでなく、労働市場でのマジョリティーになった。それが資本主義にとっては利潤の源泉になることを意味している点でも、かつての賃労働者と似ている。

30代　社会の目が「多様性」に向くにつれて、それまで一般には知られていなかったマイノリティーが知られるようになった。ＨＳＰと呼ばれる人たちもその一例だ。ハイリー・センシティブ・パーソンの略で、「敏感すぎる人」などと訳されている。

年金　原因は遺伝が50％、環境が50％とされている。つまり受精以前と生誕以後に原因のすべてがあるという見方だ。しかし、私の素人考えでは、両方の中間にあたる胎児の時期に受けた衝撃やストレスを原因のひとつに加える必要があると思う。

　個体発生は系統発生を繰り返すというのが近似的な真理だとすれば、受精から生誕に至る母胎内での過程は、生物の進化の過程の大ざっぱな反復と考えることができる。進化は多様な種を生み出す。それだけでなく、それぞれの種、それぞれの個体の持つ特性を多様化する。それぞれの種が多様な特性を備え、さらにその個体も多様な特性をあわせ持ち、そうした特性の組み合わせのバリエーションが、種と個体の多様性を形成していると言ってもいい。ＨＳＰはそうした多様性を構成する特性のひとつに数えることができる。

　「多様性」とは、多様な個人や集団が存在し、多様な考えや振る舞いをしている状態を指すだけでなく、個人や集団が自らの中に多様な主体を持ち、それらが多様な考えや振る舞いをしている状態を含んでいる。

ニュース日記　873

中村　礼治

多様性をめぐって